



公益社団法人 日本薬剤師会理事 松浦 正佳

医療機関や薬局で薬をもらう際、薬剤師から今飲んでいる薬の名前や過去に薬で具合が悪くなった経験、アレルギーなどについて、いつも質問されませんか。「薬をもらったたびに質問されるのは面倒だ」と思われるかもしれませんが、薬剤師にとってはとても大切なこと。調剤の都度、薬の重複や危険な飲み合わせがないかなどを確認しているからです。問題ないことを確認した上で薬を使用してもらわなければ、薬が効かないだけでなく、悪い影響が出ることもあるため、情

正しく服用するための情報源

お薬手帳



報を確実に聞き出すことは不可欠です。

しかし、何種類も薬を飲んでいて人が全ての薬の名

前を正しく覚え、医師や薬剤師に間違いなく伝えるのは、現実的ではありません。

それを助ける方法の一つが薬局で作成している

「お薬手帳」の活用です。現在や過去に使用した薬の情報だけでなく、副作用のあった薬やアレルギーの情報も記録できます。医師や薬剤師が記載された情報を見れば、薬の重複や飲み合わせを確認できるため、過去に副作用があった薬を飲む心配もなくなります。薬を正しく安全に使用す

るためにとっても重要な情報源です。

また、普段から持っていたら、外出先や旅先で思いもよらない事故に遭った場合や災害で避難することになった際にも役立ちます。

実際、避難所で手持ちの薬がなくなった人に効率的かつ確実に必要な薬をお渡しする上で、とても重要な役割を果たしました。

中には、医療機関ごとに別々のお薬手帳を持っている人もいますが、医師や薬剤師が必要な情報を得ることができず、本来の役割を果たせません。複数の医療機関にかかっている人は、ぜひ、お薬手帳は1冊にまとめるようにしましょう。